

評価者	都市整備部長	伊藤 昌裕
-----	--------	-------

◎ 評価対象分野・施策の方針

総合計画上の位置付け	分野	道路整備	施策の方針	道路・橋りょうの整備・維持管理
目標とすべきま ちの姿	道路の安全性・快適性を確保するため、効果的かつ効率的な道路の整備が進められているとともに、計画的な舗装の修繕が進められています。 また、適切な歩行空間が整備されることにより、だれもが安心して道路を利用できる環境となっています。 災害が発生した際の緊急輸送路や緊急避難路が整備され、市民の安全が確保されています。 通行に支障となる不法占用物が排除され、適切な道路管理を行っています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成26年度	17.8%	平成27年度	19.5%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性

<p>お金の使い方</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>使いすぎ</td> <td>ちょうどよい</td> <td>足りない</td> </tr> <tr> <td>必要以上の効果</td> <td>1.9%</td> <td>0.5%</td> <td>0.2%</td> </tr> <tr> <td>ちょうどよい</td> <td>2.9%</td> <td>46.7%</td> <td>0.9%</td> </tr> <tr> <td>効果不十分</td> <td>4.2%</td> <td>2.9%</td> <td>15.1%</td> </tr> </table> <p>平成26年度</p>			使いすぎ	ちょうどよい	足りない	必要以上の効果	1.9%	0.5%	0.2%	ちょうどよい	2.9%	46.7%	0.9%	効果不十分	4.2%	2.9%	15.1%	<p>お金の使い方</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>使いすぎ</td> <td>ちょうどよい</td> <td>足りない</td> </tr> <tr> <td>必要以上の効果</td> <td>1.1%</td> <td>1.1%</td> <td>0.1%</td> </tr> <tr> <td>ちょうどよい</td> <td>3.0%</td> <td>44.1%</td> <td>1.0%</td> </tr> <tr> <td>効果不十分</td> <td>4.4%</td> <td>4.7%</td> <td>14.6%</td> </tr> </table> <p>平成27年度</p>			使いすぎ	ちょうどよい	足りない	必要以上の効果	1.1%	1.1%	0.1%	ちょうどよい	3.0%	44.1%	1.0%	効果不十分	4.4%	4.7%	14.6%	<p>＜妥当性の分析＞</p> <p>お金の使い方、仕事の効果とも「ちょうどよい」と答えた割合が平成27年度は44.1%と、選択肢の中では最も多くなっている。次に多いのはお金は「足りない」、効果は「不十分」の14.6%であり、市民意識では道路整備に対し、お金の使い道が足りないがうえに効果が不十分であるという印象があると捉えることができる。</p> <p>道路整備の取組は市民生活に直結しており、投資に対してのアウトプットとしては否定的な割合は少ないので、市内の道路状況を改善していくためにも、道路整備に対して投資の拡大を求めている意見が多いと考えられる。</p>
	使いすぎ	ちょうどよい	足りない																																	
必要以上の効果	1.9%	0.5%	0.2%																																	
ちょうどよい	2.9%	46.7%	0.9%																																	
効果不十分	4.2%	2.9%	15.1%																																	
	使いすぎ	ちょうどよい	足りない																																	
必要以上の効果	1.1%	1.1%	0.1%																																	
ちょうどよい	3.0%	44.1%	1.0%																																	
効果不十分	4.4%	4.7%	14.6%																																	
<p>全体の位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)</p>																																				

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答	全体
平成26年度	18.4%	34.2%	30.4%	17.0%	100.0%
平成27年度	27.9%	44.2%	2.4%	25.5%	100.0%

2 内部評価

(1) 平成27年度の目標

道路舗装については、道路舗装修繕計画により、橋りょう修繕計画は、橋りょう長寿命化修繕計画に基づき引き続き実施する。

交差点内やスクールゾーン等のカラー舗装化を実施し、交通事故の削減を図る。

点検調査した橋りょうについては、長寿命化修繕計画を策定する。

環境への配慮については、効率よく住民要望に対応できるよう街路樹の選定や病害虫対策を実施し、街路灯のLED化については、一部開始する。

(2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		今後の方向性	
整理番号	事業名	平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	事業内容	予算規模
都整-03	道(水)路調査事業	66,424	65,958	129,720	129,104	8.0	8.0	b	B
都整-04	道路台帳整備事業	65,535	62,325	91,644	88,373	3.3	3.3	b	B
都整-05	道路施設管理事業	88,313	98,397	132,620	142,599	5.6	5.6	b	B
都整-06	街路照明灯事業	35,960	28,118	45,454	34,590	1.2	1.2	b	B
都整-11	道路橋りょう管理運営事業	37,827	37,938	47,160	47,315	1.1	1.1	b	B
都整-12	交通安全施設維持事業	4,425	3,405	7,819	6,815	0.4	0.4	b	B
都整-13	交通安全施設整備事業	19,619	36,041	36,588	53,090	2.0	2.0	b	B
都整-14	道路維持補修事業	123,338	158,007	140,307	175,056	2.0	2.0	a	A
都整-15	道路新設改良事業	174,007	217,409	186,734	230,196	1.5	1.5	a	A
都整-16	橋りょう維持補修事業	19,345	21,084	34,617	36,428	1.8	1.8	a	A

都整-17	国県道対策運営事務	1,174	1,167	9,659	9,692	1.0	1.0	b	B
都整-18	国県道対策事業	26	25	8,511	8,550	1.0	1.0	b	B
都整-19	道路整備計画等運営事務	52	52	1,749	1,757	0.2	0.2	b	B
都整-40	街路樹維持管理事業	15,504	15,751	23,052	23,387	1.0	1.0	b	B
	受託設計・工事管理			16,969	17,049	2.0	2.0	a	

### (3) 主な実施内容

<p><b>【主な実施内容】</b>  道路ラインや通学路等のカラー舗装の維持補修を実施し、交通事故の削減を図った。(都整-12)  交差点の段差解消等やガードレールの設置を実施し、交通安全対策を図った。(都整-13)  舗装の維持修繕を実施し、交通事故や通学路の安全対策を図った。(都整-14)  大規模住宅等の道路改良整備工事や砂押川の歩道整備を実施し、安全で安心な歩行空間を確保した。(都整-15)  劣化の著しい橋りょうの維持補修を実施し、安全な交通の確保を図った。(都整-16)  橋りょう長寿命化修繕計画を策定し、市内の橋りょうの長寿命化修繕計画が完了した。(都整-16)  予算内の事業実施であったが、計画的に街路樹の剪定等を行い、住民要望にも対応でき道路の通行の安全性や近隣家屋への影響の無いよう適切な街路樹の管理ができた。(都整-40)</p> <p><b>【実施できなかった事業とその理由等】</b>  地元や関係機関との調整に時間を要したこと、また入札の不調などにより、いくつかの工事において明許繰越を行った。(都整-13・14・15・16)</p>
--

### (4) 平成27年度の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	□ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	□ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	□ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	□ 要改善
<p><b>&lt;上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等&gt;</b>  道路舗装修繕計画や橋りょう長寿命化修繕計画に基づき、事後保全型の管理から予防保全型の管理への転換を図り、合理的にまた国の交付金を活用し財源の確保に努めながら道路舗装及び橋りょうの維持修繕を実施した。  また、道路調整会議などにより作業センターを始めとした他課や、他企業(水道、ガス等)と連携することにより、有効かつ効率的な予算の執行を行い、交通の円滑化及び事故の抑止を図った。  街路樹の剪定等を実施し、住民要望にも対応でき、適切な街路樹の管理ができた。</p>			

### 3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

<p>道路補修については道路舗装修繕計画、橋りょうについては橋りょう長寿命化修繕計画に基づき、合理的、効率的に国の交付金を活用していきながら順次維持管理を行う。  市内の道路・橋りょう等のインフラ設備は、整備後相当年数が経過していることから状態が悪く、市民から補修要望が多く寄せられているため、予算規模を拡大して対応を図る必要がある。しかしながら、人員不足もある中で、土木積算システムの統括管理、受託設計など本来の道路業務以外の業務が本来の道路事業を圧迫している。そのため、過去にあった積算専門部署の創設、委任部署の事業に対する意識改革、委任部署自らの予算措置による外注システムの確立などの検討を行う必要がある。  街路樹の維持管理を道路管理者や愛護会と連携し道路環境保全に努めた。</p>
---

### 4 平成28年度の目標

<p>引き続き、道路補修については道路舗装修繕計画、橋りょうについては橋りょう長寿命化修繕計画に基づき、合理的、効率的に国の交付金を活用していきながら順次維持管理を行う。  交通の円滑化や安全性の確保について、国の交付金を活用し財源の確保に努めながら、引き続き交通安全施設の整備改修に努めていく。  交差点内や通学路等の安全対策として、道路ラインやカラー舗装の維持補修を引き続き行い、交通事故の削減を図る。  効率よく住民要望に対応し街路樹の選定や病虫害対策を実施する。</p>
---

### 5 主な事業における指標(目標ごとに1つ)

整理番号	都整-15	事業名	道路新設改良事業							
指標の内容	舗装修繕計画による舗装修繕延長					単位	m	指標の傾向	↗	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
事業の目標の一つである舗装修繕の達成状況が確認できるため	目標値	2,073	2,417	2,222	2,223	4,545	4,545		H27-28:2ヵ年で4,445m	
	実績値	2,010	1,542						H30-34:5ヵ年で22,725m	
	達成率	97.0%	63.8%							

整理番号	都整-16	事業名	橋りょう維持補修事業							
指標の内容	年度別橋りょう点検数					単位	橋	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
5年に一度の法定点検を行い、橋りょうを適切に管理していくため。	目標値	58	0	33	27	87	58			
	実績値	58	0							
	達成率	100.0%	0.0%							
整理番号	都整-40	事業名	街路樹維持管理事業							
指標の内容	道水路管理課から委任されている街路樹の管理路線70路線について、各年度の剪定等の実績					単位	路線	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
街路樹の維持管理については、適時実施し隣接家屋や交通の支障にならないようにする。	目標値	70	70							
	実績値	16	16							
	達成率	22.9%	22.9%							

**参考 前年度外部評価結果への対応**

<p><b>鎌倉市民評価委員会からの指摘</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当分野は市民生活に密着しているが故に「市民要望」も多く、「計画性」「短期的優先順位」という相矛盾する命題を背負っているが、街路灯LED化の早期100%実現等、「更なる効率化」を進めたい。</li> <li>・橋りょうは、架設後相当年数を経ており、経年劣化等による損傷が現れ、補修を行っているが、年間で実施が可能な箇所数に限界がある。</li> <li>・大船駅東口及び西口ペDESTリアンデッキ並びに交通広場の利用者の安全性・快適性の向上以外は、具体的施策が分からない記述である。</li> </ul>	⇒	<p><b>指摘への対応、コメント等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道路調整会議を開催し、関係各課、関係機関と連携を図り、日時の短縮や予算の削減等更なる効率化を進めていく。</li> <li>公益財団法人神奈川県都市整備技術センターの積算委託等外注システムを活用し、限られた人員の中で効率的に発注できるような仕組みを確立していく。</li> <li>各事業の具体的な施策について記述を行った。</li> </ul>
--	---	---

## 鎌倉市民評価委員会の評価

### 《評価できるところ》

- ・舗装、橋りょうの維持管理、街路樹の適切な管理等定型業務は進められている。
- ・事後保全型管理から予防保全型管理へと転換した。
- ・国の交付金の活用し、財源を確保しながら事業を実施している。
- ・橋りょうについては橋りょう長寿命化修繕計画をたてている。
- ・都市計画道路の見直しなどは現実にそった総合的判断として評価できる。
- ・交差点内やスクールゾーン等のカラー舗装化を実施し、交通事故の削減を図った。交差点の段差解消等やガードレールの設置を実施し、交通安全対策を図った。
- ・他部署、部門と連携し事業を実施するなど、計画性や効率性を考慮している。
- ・自己点検に努め、具体的な実施事項と課題を把握しながら事業に取り組んでいる。

		評価の内訳							委員会の評価
取組	↗	2	↘	1	→	5	⇒	→	
効果	○	0	△	1	-	7		-	

### 《課題》

- ・「災害発生時の緊急輸送路・緊急避難路確保」のシミュレーションは完成しているのか。災害時の応急体制の充実について取組が見えず、どのようになっているのか明らかになっていない。
- ・「道路調整会議などにより他課や作業センター、他企業(水道、ガス等)と連携、有効かつ効率的な予算の執行を行い、交通の円滑化及び事故の抑止を図った」とあるが、より具体的な内容が分からない。
- ・市民満足度の実数が例年低く、また近年も下降している。このことについて、毎年のこととしてややあきらめて受けておられる感がある。限られたコストを効率的に使い、歩行者共存と生活道路の改善が進められることが求められる。
- ・トンネルの安全点検、維持管理は当面予定がなくてよいのかが明らかになっていない。
- ・きりのない事業であり、現在どこまで整備されているのか明らかになっていない。

### 《提言》

- ・道路・橋りょうインフラ整備は限られた予算内での一層の効率化を図るため、道路補修は道路舗装修繕計画、橋りょうは橋りょう長寿命化修繕計画に基づき、優先順位をつけながら効率的に行うべきである。
- ・道路が狭いので歩行空間の確保は難しいが、歩き易い歩道整備が重要である。
- ・緊急輸送路や緊急避難路の整備目標に対して、現状の把握と目標設定を行うべきである。
- ・不法占拠物では無いが、電柱により道路幅が狭くなり、緊急車両の通行の妨げになっている道路が多い。道路の拡幅が困難な地域では、景観改善とは別に送電線の地中埋設化を促進していただきたい。
- ・指標としている「街路樹の管理路線70路線について、各年度の剪定等の実績」は、予算上全てを行うことは不可能と思われることから、選定計画を策定し、予算に応じた目標値を設定すべきである。